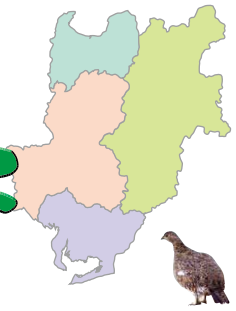




国民の森林・国有林

広報

# 中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



神坂首席森林官から国有林の取り組みを聞く高校生(東濃署)

## 森林・林業への関心を高めて その魅力を学ぶ

主な項目	○平成26年度国有林モニター会議の開催 .....	P2
	○各地からのたより .....	P3
	○寄稿 「森林鉄道と私の半生」 .....	P6
	○シリーズ「森林官からの便り」 .....	P6
	○シリーズ「ご当地自慢」 .....	P8

# 平成二十六年 国有林モニター会議

【企画調整課】 六月二十五日、中部森林管理局大会議室（長野市栗田）において、国有林モニター会議を開催しました。

国有林モニターとは、幅広い国民の皆様の声を国有林野の管理経営に反映させていくため、応募により委嘱した方々です。今年度から二年の任期で国有林モニターとなる三十五名のうち管内一円から二十一名の方にお集まりいただき、当局からは局長、総務企画部長、計画保全部



会議の様子

長、森林整備部長、総務課長、企画調整課長が出席しました。

会議は、参加者の紹介後、中部森林管理局の平成二十六年度の事業概要の説明、国有林モニターアンケート（第一回）結果の説明及びモニターの皆さまでのご意見やご質問に対する局としての考え方を説明した後、意見交換を行いました。



発言されるモニターの皆さん

国有林モニターの皆様からは、「地球温暖化等の取り組みについて理解できた」、「イベント情報等発信をお願いしたい」、「各種資料の言葉遣いが難しい」、「地域にあった施策が必要である」、「広葉樹も含め用途にあった木材供給が必要」、「海外の林業にも学ぶべき」、「花粉



モニターの皆さん(前列中央が奥田局長)

対策が必要」、「木曽地方の温帯性針葉樹林の保全・復元の取り組みは重要である」、「山の事を若い人、子供達に広げていく必要がある」など貴重なご意見をいただきました。

また、閉会後に実施したモニター会議についてのアンケートでは、「意見交換、会議の時間が短かった」、「今後の現地視察が楽しみ」、「森林管理局の活動やイベント等もっとアピールすべき」といったご感想、ご要望をいただきました。

局としても、今回の国有林モニター会議でいただいた貴重なご意見を、これからの国有林野の管理・経営に活かしていきたいと考えております。

## 【木材の販売情報から】

### 「木曽署から天然カラマツ等を出品！」

【名古屋事務所】七月十五日に岐阜県銘木協同組合の原木市「木魂祭特別市」が開催されました。時期的に梅雨時期ということもあり、出品状況に品薄感がある中、木曽森林管理署から委託販売として、天然カラマツ、天然サワラ等（三十三本・約三十二立方尺）が出品されました。

当日は、全国から多くの木材流通関係者が集まり、夏の日差しが照りつける中、セリが熱心に行われました。

木曽署から出品された原木は、市場関係者の宣伝効果やレア感も手伝い天然カラマツ、天然サワラに注目が集まっていました。

今回、木曽署から出品された丸太の



木魂祭特別セリ売りの様子



樹種ごとの最高値は、天然カラマツ二十二万円／立方メートル(四十二センチメートル×四・四メートル)、天然サワラ三十万円／立方メートル(七十二センチメートル×五・〇メートル)、ヒメコマツ十五万円／立方メートル(五十センチメートル×四・〇メートル)、ナラ十五万円／立方メートル(四十八センチメートル×四・四メートル)と、高値がつかまりました。

セリに参加した買付人からは、「今回はいつ天然カラマツが出品されるのか？」などの問い合わせもあり、貴重な市場情報等を得られたと感じています。

また、出品にあたっては、現地で十分採材検討などを行ったことが、今回の有利販売につながったものと考えています。

## 岐阜県の関係者の皆さんと

### 意見交換会

【企画調整課】七月十六日、中部森林管理局(長野市栗田)において、岐阜県議会、岐阜県林政部、岐阜県森林施業協会、岐阜県林政部、岐阜県森林施業協会の皆さんとの意見交換会を開催しました。

今回の意見交換会は、岐阜県議会、岐阜県及び岐阜県森林施業協会による森林・林業に関する調査の一貫として行われ、岐阜県議会早川議員をはじめ岐阜県林政部高井次長、岐阜県森林施業協会伊藤会長など十二名が来局されました。中部森林管理局からは奥田局長、高信総務企画部長、中村森林整備部長等が出席し、岐阜県内で建設が予定されている大



意見交換会の様子

規模製材工場やバイオマス発電施設への木材供給、コンテナ苗を活用した伐採と造林の一貫作業などの低コスト造林対策、ニホンジカ被害対策などについて、約二時間にわたり、活発な質疑・意見交換が行われました。

中部森林管理局としては、今回の意見交換会の議論も踏まえつつ、各県との連携により、国有林材の安定供給、低コスト造林、ニホンジカ被害対策等の取組を進めていきたいと考えております。

## 各地からのたより

### 高校生が木材の生産から

#### 建築までの一連の流れを学ぶ

【東濃署】七月七日、岐阜県立恵那農業

高等学校環境科学科の一年生四十名が、中津川市内で木材の生産、流通、加工及び建築までの一連の流れを見学し学習しました。

この取組は、岐阜県の「農林高校生林業就業促進事業」として、恵那農高、東濃森林管理署、県恵那農林事務所の三者が連携して実施しました。

当日は、朝から生憎の激しい雨となり、湯舟沢国有林内の間伐事業地の見学の予定は、室内での座学に変更しました。まず、同国有林を担当する神坂森林事務所の羽田野首席森林官から、管内の概要説明を行い、次いで大野森林技術指導官から、林業のサイクル、間伐の必要性、間伐の効果等を説明しました。また、搬出間伐の工程や作業システム、高性能林業機械、採材方法について手作りのパネルとDVDを使って紹介すると生徒達は、興味深く画面を見つめていました。さらに、間伐を請け負っている事業体の担当者から、現場での作業の流れや、苦労話などを聞きました。若い現場

代理人が林業に対する思いを述べると、生徒達は真剣に耳を傾けていました。昼食後は、坂下地区にある原木市場に向かいました。ここでは、国有林から抛出されたヒノキの丸太が並ぶ土場で、市売りの方法や、高い値がつく丸太の見方などについて学習しました。「天然木曽檜」と「きそひのき」の違いについて丁寧に説明され、生徒達はよく理解した様子で



モデルハウスでの説明

した。

次に、近くの製材工場を訪ね、丸太が柱や板になる工程を見学しました。丸太の皮を剥く機械、丸太の製材機、製材品の乾燥機などの説明を受け、生徒達は普段家で目にする木の柱や板がどのように作られているのかを間近かに見て大変関心を持った様子でした。最後の見学は、同製材工場が建てたモデルハウスです。

生徒達は、地元産のヒノキをふんだんに使って作られた家の中に入ると、木造住宅の素晴らしさに歓声を上げ、くつろいだ様子でした。木材生産から流通・加工、建築までを見学した生徒からは、「それぞれが分断しているのではなく、つながっていることが理解できた。」「多くの人の力で成り立っていることがわかった。」「木造住宅は、やわらかさと



か、やさしさを感じる。木材を使うことは大事なことだし、自分も木造住宅に住みたい。」との感想が聞かれました。

この取組は、今後も、一年生のカリキュラムとして継続して実施していくこととしています。将来、この生徒達の中から一人でも多くの者が森林・林業・木材産業に関連する職業に就いてもらえることを願っています。なお、今回の取組は、国有林から岐阜県庁の恵那農林事務所林業課に出向中の竹内智絵さんが担当し、国有林との調整や進行を務めました。県職員の立場で元気に活躍してる姿も合わせて報告いたします。



恵那農林事務所の竹内さんの講義

### 「水無湿性植物群落保護林」

#### で観察会

【富山署】六月七日、岐阜県境に近い富山県南砺市利賀村水無にある水無国有林



水無湿原でミズバショウを鑑賞

三〇五林班において「水無湿原観察会」が、NPO法人「利賀飛翔の会」主催で行われ、富山署は現地案内等で協力しました。

観察会には、約七十名の市内外のトレッキング愛好家等が参加されました。

水無湿原は、湿性植物であるミズバショウ、リュウキンカ等が、ブナ林に囲まれた平坦な沢沿いに生息しています。

現地到着後、主催者及び富山署等からのあいさつの後、散策を始めました。林道の散策では、「春の女神」として愛されているギフチョウが林道上を多数舞って参加者も感動されたようです。その後、水無湿原内の整備された木道を散策して、咲き始めたミスバショウ、リュウ

キンカ等を観察しました。観察会に参加された皆さんからは、「ミスバショウ等の貴重な植物等が観察できる水無湿原を、今後とも保護していただきたい。」との声が多くありました。



観察会に参加された皆さん

### 「高山植物等保護啓発

#### トレイディングカード」で

#### 登山マナーを啓発

【中信署】北アルプス、美ヶ原一帯の市町村や山小屋関係者でつくる高山植物等保護対策協議会中信地区協議会事務局の中信森林管理署では、貴重な動植物保護のために登山のルールやマナーを書いたトレイディングカードを作り、山小屋へ

置くとともに、グリーンサポートスタッフ等から登山者に配布しています。

カードは名刺より少し大きめで、表には国の特別天然記念物のライチョウやコマクサなどの高山植物のカラー写真を載せた六種類のカードを用意しました。また、それぞれの裏には、「高山植物・蝶などの採取は禁止されています」「ゴミ、余った食料は全て持ち帰りましょう」などの禁止事項を記しています。

近年、増加傾向にある韓国、台湾からの観光客も想定し、日本語のほか、英語、中国語（北京語）、韓国語で説明していますので、外国の人など多くの人にルールやマナーを知っていただくきっかけになればと思っています。

高山植物等保護啓発トレイディングカード

【写真面 6 種類】



【4 力国語面 2 種類】



高山植物等保護対策協議会 中信地区協議会

### 阿寺溪谷で景観整備作業

【南木曾支署】七月九日、長野県南木曾郡大桑村阿寺国有林内の阿寺溪谷において、大桑村、大桑村議会、関係団体から構成される、「阿寺溪谷管理運営協議会」による阿寺溪谷景観整備作業が行われま



した。

これは、平成二十四年度に協議会と南木曾支署の間で「レクリエーションの森」の整備・管理及び活用に関する協定を締結し、阿寺溪谷の美しさを後世に引き継ぐために、阿寺溪谷の景観整備活動を毎年実施しているものです。

今年度は、観光シーズンを迎えるにあたり、協議会と南木曾支署から二十六名が参加し、阿寺溪谷入り口とハナノキ古樹周辺の二班に分かれ、草刈り作業を行いました。

作業中は、好天に恵まれ気温が徐々に上がる中、各々で用意した刈り払い機や鎌で、汗を流しながら、黙々と作業に当たっていました。



阿寺溪谷入口作業の様子

一時間半の予定作業でしたが、皆さん慣れた手付きで作業に当たられ、怪我も無く予定していた時間より早く終了する

ことができました。

美しくなった阿寺溪谷に、今年度も多くの観光客の皆さんが訪れることを期待し、今後も協議会はじめ地元住民の協力を得ながら、阿寺溪谷の保全・管理を進めていくこととしています。



ハナノキ古樹周辺作業の様子

### 東信地域の小学生を対象に「森林教室」

〔東信署〕六月十二日、長和町内の和田小学校において、三年生の児童十四名を対象とした「森林教室」を実施しました。

和田小学校は、平成二十年十月から当署管内の国有林において「遊々の森（和田小学校黒耀の森）」の協定を締結しており、今回の「森林教室」も「遊々の森」での森林体験学習を行う予定でした。



学校敷地内で宝物探しをする児童

しかし、降雨のため、学校内での実施となり、森林のはたらきや「遊々の森」の名称の由来となった黒耀石の観察、動物の足跡や歩き方について学習をした後、校庭において宝物探しを行い、児童と先生方が協力して、隠してある宝物を探し出していました。

児童達が住んでいる地域は緑が豊かで、学び舎も国有林から生産された木材をふんだんに使用した木造校舎であることから、森や木々の話について、大変興味深く聞き入ったり、「学校を作るとき何本の木を使ったの?」「カラマツの木の高さはどのくらい?」など、質問もたくさん出されました。

また、「遊々の森（和田小学校黒耀の森）」についての話を聞いた後、児童の皆さんから「早く黒耀の森に行ってみたい。」「黒耀の森の大きなカラマツの木を見てみたい」との声が聞かれ、森林への関心の高さが見られました。



森林教室の様子

### ヒメコマツに四十万円!

#### 「職員の造材指導実を結ぶ」

〔木曾署〕六月二十五日、木曾官材市売協同組合萩原事務所において原木市が開催され、国有林からヒメコマツ、木曾ヒノキ、天然サワラ等など三十三立方メートルを委託出品しました。委託材の目玉商品として、長材で採材したヒメコマツ長級十メートル四センチ、径級五十二センチ（王滝国有林産）と木曾ヒノキ風倒木で長級五メートル、径級五十二センチ（台ヶ峰国有林産）に注目が集まりました。気になる出来値は王滝国有林産ヒメコマツが一立方当たり四十万円、木曾ヒノキ風倒木には一立方当たり六十一万九千円の値が付き、良好な結果となりました。

ヒメコマツを落札した岐阜県の業者は、社寺関係の部材（桁）に長材のまま





木曾ヒノキ風倒木

職員による山土場での造材指導により採材されたもので、好調な結果に職員も喜

今回出品したヒメコマツは、販売担当

人気のある商品の一つです。また、木曾ヒノキ風倒木は、今から五十五年前に発生した伊勢湾台風の被害木と思われ、白太(辺材)部分が朽ち果て一見使い物にならない印象を受けますが、赤味(心材)がしっかりと残っていて、アクや脂が抜けており、さらに乾燥していることから即製品化が可能なため



ヒメコマツ長材

使用するため入札されたようで、長尺大径材のヒメコは希少であることから出材されれば是非購入したかったとのことでした。

んでおり、生産した請負業者も大変驚いた様子でした。

このように造材手に材の価値を最大限引き出そうという意識を持ってもらうことも重要と考えており、今後も、各生産箇所での造材指導を行い、需要にマッチした材を供給できるよう取り組んで参ります。

### 寄稿

かつて木曾ヒノキや天然広葉樹を運材し、地域住民に愛され続けてきた森林鉄道に関する思い出や楽しい出来事などを、OBの皆様から、ご寄稿いただきました。

国有林の歴史を示す貴重な財産としてここに掲載させていただきます。

### 森林鉄道と私の半生

元上松営林署 村仲 徹氏

森林鉄道と私の出会いは、十五歳で王滝営林署・水ヶ瀬事業所に配属された昭和二十七年に始まります。木曾谷に生まれながら、森林鉄道への乗車は初体験でした。厚板を敷いた台車に、荷物と一緒に乗り込み、不安と恐怖に慄きながら、水ヶ瀬へと出発しました。途中トンネルの中での耳が破裂するようなエンジンの大音響には驚きました。半世紀も前の事になりますが、今も鮮明に記憶していま

す。

一年目は水ヶ瀬から王滝営林署まで、徒歩と森林鉄道の定期便での文書送達の仕事に携わりました。二年目からは小俣の会所へ仕事の主体が移りました。余暇のランプの下でのマージャンや魚釣りが楽しみでした。里へは盈車(積貨車)かトロッコに乗っての下山が徒歩でした。いずれも手ブレーキのため、雨が降ればスリップし、びくびくしながらの下山でした。

三年の勤務の後、助六事業所に配置転換になりました。強く印象に残っていることは、丸太を五段階の高架に組み上げの木橋軌道作設の技術のすごさです。運材が始まった時の歓声は今でも印象に残っています。森林鉄道は、一度で大量の木材搬出ができるメリットがあり、十両を越す積荷の運材は実に勇壮でした。

昭和三十三年の秋には上松運輸営林署へ配置転換になり、貯木場への貯木、地元での販売、さらには三都(東京・大阪・名古屋)への鉄道輸送と休日交代勤務がある忙しい毎日でした。

昭和四十年代に徐々に森林鉄道からトラック運材へと切り替わり、これを期に私も管内転勤が始まりました。

お陰様で、厳しい仕事の中でも健康で大きな災害にも遭わずに、四十五年余り勤務をすることができ、多くの皆様に大変お世話になりました。ありがとうございます。

いました。

現在は、時折赤沢自然休養林に家族と出かけています。半世紀でいろいろな変化がありました。半世紀でも、美しい自然が守られていくことを願っています。



「飛驒署 夏廐森林事務所」

森林官 鈴木 賢哉

夏廐森林事務所は岐阜県北部の飛驒市古川町に所在し、高山市清見町と飛驒市河合町に広がる約三、五〇〇鈔の森林を管理しています。当事務所のすぐ横を、「宮川」が雄大



情緒あふれる古川の町並み



に流れており、富山県境までに数々の支川と合流して、「神通川」となり富山湾へと流れています。富川を挟んで向かい側には、飛騨古川の「古い町並み」が広がっています。町には伝統ある酒蔵が建ち並んでおり、「蓬菜（渡辺酒造）」と「白真弓（蒲酒造）」という地元はもろん全国でも愛される名酒が造られています。



飛騨古川の地酒(蓬菜と白真弓)

また、四月十九、二十日には日本三大裸祭りにも数えられる古川祭の起し太鼓・屋台引き回しが行われ、多くの人々で賑わいます。

私も四月に赴任し初めて古川祭りを見ましたが、屋台の繊細な彫刻や、太鼓の轟音に圧倒されました。また、二十代前半の若者から御年配の方まで、幅広い年代の地元の方がサラシ・フンドシ姿で

祭りに参加されていたのも印象に残りました。人間にしても森林にしても、幅広い年齢層がいるというのは様々な利点を生み出すし、何よりいろいろな人が一緒になって騒いでいるのが傍目に見ても楽しそうで、それが活気となっているのだと感じました。



古川祭の起し太鼓

さて、山の方に目を向けてみますと、当事務所管轄の森林は、スギ、ヒノキ、カラマツを主体とする造林地が全体の約八割を占めています。国有林全体の人工林率は約四割ですから、人工林の割合がかなり高い地域であると言えます。これから人工林では適期での保育に努めており、公益的機能の発揮を主眼とした山作りが代々なされてきています。今年度は、除伐2類（約七十杉）や、保育間伐（約七杉）を請負事業で実行しています。また、部内の国有林は林道密度が高く、保育間伐した木材を搬出して有効活用する「保育間伐活用型」の事業にも積

極的に取り組んでいます。今後資源の有効活用が期待できる山であると言えます。

ところで、今年度は夏厩管内及びその周辺でマイマイガの幼虫が大量発生しています。



大量発生中のマイマイガ(幼虫)

広葉樹の下に車を停めておくと、帰る頃には五十匹以上の幼虫が集って、目下の悩みの種となっています。肩の毛虫を素手で払えるほどに慣れてしまったのが良いのか悪いのか……。よく見るとかわいい顔（写真参照）をしているのですが、大量発生した際に草花や樹木の葉を食害するため、マイマイガは世界の侵略的外来種ワースト100（IU



古川、大谷、夏厩森林事務所の面々(筆者は後列中央)

CN, 2000)にも指定されています(なお、日本には元から生息していた模様)。

最後に、当森林事務所は同じ古川町に所在する古川森林事務所、大谷森林事務所と協力しながら業務を進めています。今後も三事務所が協力し、先輩の指導を受けながら、夏厩の森林官として代々受け継がれてきた山を大切に育て、時に活用し、守っていければと思います。

## 人のういき

中部森林管理局人事

六月十九日付

▽育児休業（東濃署主任事務管理官）  
（平成二十九年四月二十二日まで）

伊藤章代

七月一日付

▽東濃署主任事務管理官（東濃署森林整備官（森林ふれあい担当）） 安江清文

## 行事・会議等の予定

◎愛知県木材団体国有林視察

8月6日 飛騨署管内

◎名古屋市教職員等林業現場見学会

8月21日 段戸国有林ほか

◎木曾地方の温帯性針葉樹林の保存・復元に向けた取組管理委員会専門部会

8月22日 木曾署管内





岐阜県中津川市北部の長野県境付近に端を発する付知川の上流部は「付知(つけち) 峡」と呼ばれ、左に西股谷、右に東股谷と分かれています。この付知峡は、別名「青川」とも呼ばれる溪流と、新緑・紅葉が美しい自然に恵まれ、「森林浴の森日本一〇〇選」「岐阜県の名水五〇選」「飛騨・美濃紅葉三十三選」に選ばれています。今回は、四季折々の楽しみ方ができる西股谷を紹介します。

■**勇壮な滝【高樽の滝】**  
標高八八〇㍎にある「高樽の滝」は、裏木曾の深山から西股谷に落下する落差二一㍎の滝です。森の静けさを打ち破るかのようになり、ごう音をたてながら勢いよく落下する様はとても勇壮な滝です。滝名は高樽山(標高一、六七二㍎)が水源であることから付けられたようです。滝の上部への立ち入りは危険なため制限されていますが、昔は、豊富な水量をいかして子供たちが滑り台のように水遊びしていたそうです。現在は、森林鉄道で使われていた木橋の上から間近にその姿を



渡合温泉

■**秘湯の一軒宿【渡合温泉】**  
付知川の最上流部にひっそりとたたずむ秘湯の一軒宿です。ここには、電気が来ていません。夜はランプの火を灯すことから「ランプの宿」と呼ばれています。

源泉は明治初期に西股谷の谷筋で発見されました。泉質は、アルカリ炭酸泉で胃腸病やリュウマチに効果があるといわれています。冬季は雪が深く営業は四月



高樽の滝

楽しむことができます。



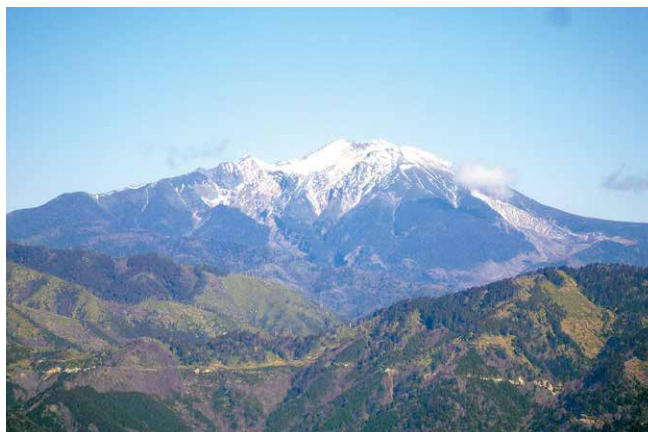
木曾越峠の石仏

から十二月までとなっています。川魚や山菜を使った郷土料理が自慢です。

■**御嶽山を望む【高時山】**  
付知川の源流に位置する山で、「ランプの宿」渡合温泉から、江戸時代に御嶽山に向かう登山道として使われた「木曾越古道」を利用して登ることが出来ます。

この「木曾越古道」は、岐阜県の加子母と長野県の王滝を結び、その歴史は今から九百年ほど前まで遡ります。当時は、御嶽講の行者や信者が頻りに往来していたそうです。加子母から白巢峠までの間には観音様を刻んだ三十三体の石仏が奉られていました。その途中にある木曾越峠では、ほお杖姿の二体の石仏が、今でも登山者の安全を見守っています。

木曾越峠から、国有林の境界尾根を進



高時山から御嶽山を望む(中央は白巢峠)

めば山頂に到着します。渡合温泉から、約四時間ほどです。高時山の標高は、一、五六三㍎で、山頂からは正面に白巢峠越しに雄大な御嶽山が、御嶽山の左には小秀山、右には夕森山、奥三界山などの裏木曾の山々が望めます。

◆**アクセス(渡合温泉まで)**

【公共交通機関】

JR 中央本線中津川駅下車、北恵那交通バス「付知峡・倉屋温泉行」約五十分「付知峡倉屋温泉」から徒歩約三時間「渡合温泉」

【自家用車】

中央自動車道中津川IC(国道二五七号・二五六号を下呂方面へ)「付知峡口」交差点(約四十分)渡合温泉